

資料3：事例の収集例

災害遺構等事例リスト

1. 静岡県浜松市細江町細江神社「祇園祭」
2. 徳島県海陽町の大岩慶長宝永地震津波碑
3. 宮崎県・外所地震の供養碑
4. 印南町の津波記録と印南中学校における教育実践
5. 和歌山県白浜町の飛鳥神社祭礼における「津波警告板」の活用
6. 八重山地震津波をめぐる伝統祭祀ナーパイ、慰霊祭
7. 寛政の津波供養碑
8. おなり神（雷神碑）
9. 安政南海地震津波碑「大地震両川口津浪記」の墨入れ行事と地藏盆
10. 津波祭での「土盛」
11. 長崎市太田尾町山川河内地区「念仏講まんじゅう」
12. 第一次室戸台風被災慰霊祭
13. 平和池
14. あの日を忘れない～伊勢湾台風の災害を語る会～
15. 「伊那谷三六災害」有線放送・記念誌、演劇、歌舞伎、記録文集等
16. 伊那谷遺産（池口崩れ・小道木（こどうぎ）の埋没木）
17. 地すべり資料館
18. 区民参加型「命を守る」防災ワークショップ
19. 「子供水防団活動」——自分の身は自分で守る
20. 天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会
21. 狩野川台風の記憶をつなぐ会
22. 津波デジタルライブラリィ
23. 津波痕跡データベースシステム
24. 津波痕跡データベースシステム
25. 四国災害アーカイブス
26. 三重県地震碑・津波碑の集成『いのちの碑』
27. 水害情報発信—水害の記録と記憶—（滋賀県 HP）
28. 明治29年6月15日の津波記念碑
29. 岩手県宮古市姉吉地区津波記念碑・昭和八年津波50回忌供養
30. 昭和8年3月3日の津波記念碑

災害遺構等事例リスト1：カテゴリ【行事】【地震】【津波】

【名称】静岡県浜松市細江町細江神社「祇園祭」

【由来災害】明応7年地震津波：1498年9月11日（明応7年8月25日）

【場所】静岡県浜松市細江町

【概要】

明応7年地震津波は東海地方を中心に大きな被害がもたらされた。現在の静岡県では津波により今切口が形成され、淡水湖であった浜名湖が汽水湖となった。この津波の時に漂着した御神体を地震厄除の神として祀る細江神社では7月第3日曜日の祇園祭で御神体を浜名湖上舟で渡る行事を行う。この行事はかつて湖西市新居町の神社にあった御神体が二度の地震による津波で細江神社近くの赤池に流れ着いたとの言い伝えにちなんだものである。

【画像】



【参考】<http://www.at-s.com/news/article/local/west/58628.html>

災害遺構等事例リスト2：カテゴリ【石碑】【地震】【津波】

【名称】徳島県海陽町の大岩慶長宝永地震津波碑
【由来災害】慶長東海地震津波：1605年2月3日（慶長9年2月3日） 宝永地震津波：1707年10月28日（宝永4年10月28日）
【建立】慶長碑：寛文4年(1664)／宝永碑：不詳
【場所】徳島県海部郡海陽町鞆浦漁港近く
<p>【概要】</p> <p>徳島県海部郡海陽町鞆浦漁港近くの大岩に、<u>慶長南海地震と宝永地震津波の碑文が同一の岩の側面に刻まれている。</u>慶長の津波碑は四国で地震・津波の様子が記された最古の碑である。慶長の碑面には中央に「午後10時に30mの津波が来襲、100余名の犠牲者が出た」という趣旨の記述があり、宝永の碑面には「午後2時頃、約3mの津波が3度来襲したが、犠牲者はなかった」という内容が刻まれている。四国で地震・津波の様子が記された最古の碑である。</p>
<p>【画像】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>慶長碑</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>宝永碑</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>慶長碑(左)および宝永碑(右)大岩の碑</p>  </div> </div>
【参考】 http://anshin.pref.tokushima.jp/docs/2012082900077/

災害遺構等事例リスト3：カテゴリ【石碑】【地震】【津波】

【名称】宮崎県・外所地震の供養碑

【由来災害】外所（とんどころ）地震：1662年10月31日（寛文2年9月20日）

【建立】1705年頃、以後50年ごとに新造

【場所】宮崎県宮崎市木花地区島山集落

【概要】

有史以来最大規模の日向灘地震の被害を受けた宮崎県宮崎市木花地区の島山地区では住民らによって 50年ごとに供養祭が行われ、そのたびに供養碑を建立し、慰霊を続けている。1基目と2基目は破壊されて文字が判別しないが、3基目は文化5年(1805)、4基目は文久2年(1862)、5基目は大正14年(1925)、6基目は昭和32年(1957)、7基目は平成19年(2007)に建立されている。

【画像】




【参考】

<http://www.47news.jp/smp/localnews/hotnews/2012/10/350-3.php>

災害遺構等事例リスト4：カテゴリ【石碑】【史料】【教育活用】【地震】【津波】

<p>【名称】印南（いなみ）町の津波記録と印南（いなみ）中学校における教育実践</p>
<p>【由来災害】宝永地震津波：1707年10月28日（宝永4年10月28日） 安政南海地震津波：1854年12月24日（嘉永7年11月5日） 昭和南海地震津波：1946（昭和21）年12月21日</p>
<p>【場所】和歌山県印南町</p>
<p>【概要】 和歌山県印南町の印定寺には、宝永4年(1707)に発生した津波により溺死した人々の合同位牌が残されている。また、嘉永7年(1854)の安政南海地震の発生状況について倉庫板壁に墨書した本郷かめや板壁の記録が残されている。印南町の印南中学校では、2005年より選択理科および総合的な学習において10年にわたり津波研究と防災啓発活動に取り組み、中学生の手による史料調査・解読を実施している。この活動では、印定寺の津波掲示板の設置や津波災害リーフレット、歴史津波を題材とした動画「安政印南の奇跡」を作成し、you tube 上での公開といった活動を展開し、「ぼうさい甲子園」で津波ぼうさい賞を4年連続で受賞するなどの実績を有している。</p>
<p>【画像】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="225 1066 331 1352"> </div> <div data-bbox="360 1066 783 1352"> </div> <div data-bbox="810 1066 1233 1352"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="225 1361 552 1395"> <p>印定寺の合同位牌と墓石</p> </div> <div data-bbox="783 1361 1054 1395"> <p>印定寺の津波掲示板</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="225 1424 679 1727"> </div> <div data-bbox="711 1424 967 1727"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="225 1742 435 1776"> <p>本郷かめや板壁</p> </div> <div data-bbox="727 1742 1169 1776"> <p>印南中学校の津波研究活動の様子</p> </div> </div>
<p>【参考】 紀州新聞「印南中生徒が貴重な防災資料「かめや板壁」解読に取り組む」 http://blog.goo.ne.jp/ks-press/m/201508</p>

災害遺構等事例リスト5：カテゴリ【史料】【教育活用】【地震】【津波】

<p>【名称】和歌山県白浜町の飛鳥神社祭礼における「津波警告板」の活用 *和歌山県指定有名民俗文化財</p>
<p>【由来災害】宝永地震津波：1707年10月28日（宝永4年10月28日）</p>
<p>【場所】和歌山県白浜町</p>
<p>【概要】 宝永の大地震の際、高瀬村（現白浜町富田）の住民達が経験した地震や津波の恐ろしさを後世の人々に伝えようと草堂寺住職に依頼し作成したものである。この津波警告板には大地震があれば必ず津波が来ること、当時家財に心を寄せた者が溺死したことなどが記されており、もともと飛鳥神社に奉納されていたものであるが、明治期の神社合祀で日神社に移管された（2015年、飛鳥神社に移管予定）。その裏面には「祭礼の時、神社に集まった村中の人々が内容を読み合わせるように」とする記述があり、<u>今日も飛鳥神社祭礼の際には津波警告板の読み上げがおこなわれている。</u></p>
<p>【画像】</p> 
<p>【参考】 http://kenpakunews.blog120.fc2.com/blog-entry-475.html</p>

災害遺構等事例リスト6：カテゴリ【行事】【地震】【津波】

【名称】八重山地震津波をめぐる伝統祭祀ナーパイ、慰霊祭

【由来災害】八重山地震、明和の大津波：1771年4月24日（明和8年3月10日）

【場所】沖縄県宮古島・沖縄県八重山

【概要】

宮古島でおこなわれている津波よけや豊年を願う伝統祭祀「ナーパイ」は、女性たちが津波が上がってこないように植物などを用い、安寧を祈り、男性は船漕ぎの模倣儀礼を捧げる祭祀である。

八重山では明和の大津浪による遭難死亡者に祈りを捧げ、災害に対する心構えの重要性を再確認する式典となっている。

【画像】



宮古島のナーパイ



明和大津波の慰霊祭



タコラサー石

【参考】

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-223530-storytopic-5.html>

災害遺構等事例リスト7：カテゴリ【石碑】【火山】【津波】

<p>【名称】寛政の津波供養碑</p>
<p>【由来災害】“島原大變肥後迷惑”：寛政4年4月1日（1792年5月21日）</p>
<p>【場所】熊本県宇土市戸口村</p>
<p>【概要】 寛政4年(1792)に普賢岳の火山活動により前山(眉山)南側が山体崩壊し、大量の土砂が島原城下を通過して有明海に流れ込んだ。この衝撃により対岸で10メートル以上の津波が発生し、島原で約10,000人、熊本で約5,000人の死者が生じた。これに関する津波碑は熊本県内において74基確認されている。</p>
<p>【画像】円応寺供養塔</p>  
<p>【参考】 http://www.city.uto.kumamoto.jp/museum/pro/kinsei/kanseinotunamikuyouhi.html</p>

災害遺構等事例リスト8：カテゴリ 【石碑】【地震】【津波】【洪水】

【名称】おなり神（雷神碑）
【由来災害】宮城県沖地震・津波：1835年7月20日（天保6年6月25日） 大洪水、火事、凶作
【建立】天保10年(1840)4月1日
【場所】宮城野区原町5丁目3-33
<p>【概要】</p> <p>仙台市宮城野区原町にある「おなり神」は、天保年間に大地震、大洪水、火事、凶作と相次いで見舞われたため、天保10年4月1日に下原町中の人たちがその供養に雷神を祀りました。雷神は坂下雷神講の方々によって祀り続けられている。</p> <p>（公益財団法人みやぎ・環境とくらしネットワーク水部会が、宮城県内の水と人の歴史文化の伝承のため、「水の神さま」を祀った神社仏閣のマップ化、ガイド（巡り）を実施。東日本大震災による被害なども追加調査している。）</p>
<p>【画像】</p> 
<p>【参考】</p> <p>http://www.melon.or.jp/melon/contents/Section/Water/wg/profiles/profile023.html</p>

災害遺構等事例リスト9：カテゴリ【石碑】【行事】【地震】【津波】

【名称】安政南海地震津波碑「大地震両河口津浪記」の墨入れ行事と地藏盆

【由来災害】安政南海地震津波：1854年12月24日（嘉永7年11月5日）

【場所】大阪市大正区大正橋

【概要】

安政南海地震津波によって大きな被害を受けた大阪の人々が147年前の宝永4年にも、同様の被害に遭ったにも関わらず過去の教訓を生かせなかったことを悔やみ、後世の人々が同じ被害を受けないよう大地震・大津波についての知識や教訓を石碑に刻み警告している。毎年8月の地藏盆に地域の人々が集まって津波碑を洗い、文字が読みやすいように「墨入れ」をし、供養を行っている。

【画像】



【参考】

<http://www.nnn.co.jp/dainichi/rensai/oskroman/150131/20150131044.html>

災害遺構等事例リスト 10 : カテゴリ【石碑】【行事】【地震】【津波】

<p>【名称】津波祭での「土盛」</p>	
<p>【由来災害】安政南海地震津波：1854年12月24日（嘉永7年11月5日）</p>	
<p>【場所】和歌山県広川町</p>	
<p>【概要】和歌山県広川町は、安政南海地震津波における濱口梧陵による避難民の救済とその後の広村堤防の修造がなされた。これを元に物語『稲むらの火』が作られ（史実とは一部異なる）、津波防災の象徴として広く語り継がれている。濱口梧陵の生家は2007年に「稲むらの火の館・津波防災教育センター」として、津波防災教育施設としての役割を果たしている。</p> <p>広村では梧陵の遺徳を称え、毎年11月に「津波祭」を実施している。その中で実施されている「土盛」とは本来は村の衆が堤防の補修を目的に、新たな土を堤防に入れて堤防の補修を行っていた。現在は形式的になっている。この津波祭は、町内の平穏無事と過去の津波により犠牲者の冥福を祈ると共に住民の命と財産を擲って堤防を築いた人々の遺業に感謝し、その道徳を継承するために行われている。</p>	
<p>【画像】</p>	
	<p>●防災体験室 果たぬべき明に備えて、津波災害から命を守る「応急」「復旧」「予防」の3つの知識を学びます。防災川柳や解説グラフィック、体験映像、ゲームで楽しみながら災害に備える大切な知識を身につけてください。</p>  <p>応急ゾーン…被災後8日間を生き抜くために。 復旧ゾーン…被災から再び立ち上がるために。</p>
<p>稲むらの火の館</p>	<p>防災体験室</p>
	
<p>津波祭／土盛</p>	
<p>【参考】http://wave.pref.wakayama.lg.jp/bunka-archive/matsuri/tunami.html</p>	

災害遺構等事例リスト 11：カテゴリ【行事】【土砂災害】

【名称】長崎市太田尾町山川河内地区「念仏講まんじゅう」

【由来災害】土砂災害：万延元年（1860）4月8日

【場所】長崎市太田尾町山川河内自治会

【概要】

万延元年に発生し、33人の犠牲者をもたらした土砂災害の供養のために毎月14日に「念仏講まんじゅう」が全世帯に配られている。まんじゅうを受け取った家庭では仏壇に供えた後家族で分け合うが、このときまんじゅうの由来が子供や地区外から来た新しい家族に伝えられる。

【画像】



【参考】

<http://www.sabopc.or.jp/bousai-m/images/nenbutsukou.pdf>

http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index2.cgi?ac1=B742&ac2=B74201&ac3=6987&Page=hpd2_view

災害遺構等事例リスト 12 : カテゴリ 【石碑】 【台風】

【名称】 第一次室戸台風被災慰霊祭

【由来災害】 第一次室戸台風

【年代】 1934（昭和9）年9月21日

【場所】 近畿地方

【概要】

1934年9月21日に近畿地方を襲った第一次室戸台風の被害により建築間もない木造校舎が倒壊し、多くの死者・負傷者を出す惨事となったことを受けて、亡くなった18名を偲び、「命の大切さ」を学ぶために第一次室戸台風慰霊祭を再開し、その取り組みの中で亡くなった方々の慰霊と室戸台風での出来事を忘れぬよう2008年に室戸台風慰霊碑が完成した。

【画像】



【参考】

http://swa.city-osaka.ed.jp/weblog/index.php?id=e731661&type=1&column_id=105256&category_id=4603

災害遺構等事例リスト 13 : カテゴリ【イベント】【資料館】【豪雨】

【名称】平和池
【由来災害】1951（昭和26）年7月11日の局地豪雨
【場所】京都府亀岡市篠町柏原区
【概要】 <p>戦後の農産業復興を担った防水灌漑溜池のアースダム決壊「平和池」は、昭和26年7月の豪雨で決壊し、75名の犠牲があった。</p> <p>その後、平成14年に住民有志による「平和池水害特別委員会」を設置し、水害資料の収集、被災者ら関係者の聞き取り、ダム跡の調査を始めた。収集・整理した水害資料は地元の公民館で公開展示したほか、次代に語り継ぐための本づくりに取り組み、平成21年に災害ドキュメント「平和池水害を語り継ぐ―柏原75人の鎮魂歌」（A5判、380頁）を出版。「平和池水害伝承の会」に衣替えし、水害資料室の公開や各地での防災講演、資料展の開催はじめ子どもたちの地域学習交流にも参加、平和池水害の歴史を伝える活動を実践している。</p>
【画像】 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"></div>
【参考】 <p>http://shinocho.heteml.jp/shinocho/?page_id=80</p> <p>http://www.eonet.ne.jp/~enjoykameoka/page/kasebara.htm</p> <p>http://nekotani.blog.fc2.com/blog-entry-412.html</p>

災害遺構等事例リスト 14 : カテゴリ【イベント】【台風】

【名称】あの日を忘れない～伊勢湾台風の災害を語る会～

【由来災害】伊勢湾台風：1956（昭和 34）年 9 月 26 年

【場所】三重県桑名市長島町

【概要】

長良川河川工事事務所では、長島町において地元の子供達を対象に、伊勢湾台風当時の被災状況を知ってもらい、今後起こり得る災害への備えの大切さについて考えてもらうことを目的に「あの日を 忘れない～伊勢湾台風の災害を語る会～」を開催。伊勢湾台風の被災体験者から当時の様子を説明した。

【画像】



【参考】

<http://www.water.go.jp/honsya/honsya/pamphlet/kouhoushi/2009/pdf/0909-07.pdf>

災害遺構等事例リスト 15 : カテゴリ【イベント】

【名称】 「伊那谷三六災害」有線放送・記念誌、演劇、歌舞伎、記録文集等			
【由来災害】 1961（昭和 36）年 6 月「伊那谷三六災害」			
【場所】 長野県飯田市			
<p>【概要】 1961（昭和 36）年 6 月長野県南部を集中豪雨では、飯田市等で土石流が発生し、飯田市伊賀良（いがら）地区、中川村、駒ヶ根市新宮川支流大洞地区、長谷村奥浦等で甚大な被害が発生した。中川村片桐地区では、当時の緊迫した状況は、有線放送の原稿や音声記録として残っており、現在は CD として保存されている。中川村では、被害状況や移住を余儀なくされた住民名簿、復興などをとりまとめた記録誌を作成している。これらの情報をもとに、三六災害から 50 年の節目、伊那谷の飯田市から諏訪市にかけて三六災害を語るリレー座談会が実施された。また、「三六災害 50 年 村民の集い」が開催され、あらためて記念誌が発行された。平成 23 年、三六災害 50 年実行委員会主催の「三六災害 50 年シンポジウム」のサイドイベントでは、地元飯田市の演劇集団による演劇「演劇的 記録三六災害五十年」が行われ、DVD に収録。小学生向けの防災活動の手引きなどを作成し「三六災害から 50 年 土砂災害・水害に備えて」という教材とともに配布されている。伊那市長谷地区では、平成 24 年に長谷にある「中尾座」で「三六災害半世紀」という題目で、歌舞伎公演が行われた。4 年一度公演されることになっている。大鹿村ケーブルテレビは「あれから 50 年…語り継ぐ三六災害」「三六災害から 50 年 北川被災者に聴く」という二つの映像記録として残している。三六災害を語り継ぐ会が組織され、各地で語り部による講演会なども行われている。駒ヶ根市中沢では、昭和 39 年にガリ版刷りの災害記録文集『濁流の子』が有志により発刊され、天竜川上流河川事務所の企画で、1991 年（平成 3 年）に復刻され、1993 年には『続・濁流の子ー伊那谷昭和 36 年災害をのりこえてー』が出版された。国土交通省天竜川河川事務所では、これらの記録・記憶の伝承の取組支援を行っている。</p>			
【画像】	大鹿村	中川村	災害記録文集
			
			
	演劇「演劇的記録三六災害五十年」	歌舞伎「三六災害半世紀」	
【参考】 http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/dmi/web88_0807/			

災害遺構等事例リスト 16 : カテゴリ【イベント】【ジオパーク】

【名称】伊那谷遺産（池口崩れ・小道木(こどうぎ)の埋没木)
【由来災害】遠江地震：1715（正徳 5）年 6 月
【場所】長野県駒ヶ根市
<p>【概要】1715年6月の遠江地震により、遠山川流域では山崩れが発生し、複数の天然ダムが作られた。天然ダムには埋没林となり、残っている。南信濃自治振興センターには「埋没木」の実物が展示されている。</p> <p>飯田建設事務所、飯田市、高森町、天竜川上流河川事務所が主催となり、大規模災害の教訓伝承を目的とした「天竜川災害伝承シンポジウム」(2015/5/29)では、現地見学イベント・シンポジウムが開催された</p> <p>現地見学イベントでは、遠山川の埋没林【伊那谷遺産】について、地元研究者の寺岡義治さん(伊那谷自然友の会)と村松武さん(飯田市美術博物館学芸員)による解説や、河川工事事務所から大規模崩壊対策施設の説明などがあった。</p> <p>シンポジウムでは、一般住民、建設業界、地域史研究者、行政など約700名が来場し、基調講演とパネルディスカッションを通じて、過去の大規模災害やその対応について学び、次世代に向けての災害教訓伝承について考える機会になった。</p>
<p>【画像】</p> 
【参考】 http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/symposium/index.html

災害遺構等事例リスト 17：カテゴリ【資料館】【地すべり】【伝承】

【名称】地すべり資料館

【由来災害】上越地域の地すべり：奈良時代、鎌倉時代？の伝説

【建設】平成4年：新潟県上越地域振興局妙高砂防事務所

【場所】新潟県上越市板倉区猿供養寺

【概要】

新潟県は、地すべり対策の重要性を伝える「地すべり資料館」を設置し、様々な土砂災害の歴史を学ぶ拠点となっている。

資料館のある「上越市板倉区“猿供養寺”」は地すべり災害にまつわる地名であるとの言い伝えがあり、その伝説を映像などでわかりやすく解説している。

【画像】




【参考】

http://www.pref.niigata.lg.jp/jouetsu_sabou/museum.html

災害遺構等事例リスト 18 : カテゴリ 【ワークショップ】

【名称】区民参加型「命を守る」防災ワークショップ
【由来災害】1974年（昭和49年）七夕豪雨等
【場所】静岡県浜松市
【概要】 <p>常葉大学社会貢献・ボランティアセンター（HUVOC）では、区民参加型「命を守る」防災ワークショップ（北区地域力向上事業採択）の中で、北区振興課の職員から都田地区の過去の災害等に関する講義を受け、その後、まち歩きにて危険箇所のチェックや地域住民からのヒアリングを行う。その結果はハザードマップとして作成し報告する予定。</p>
【画像】 
【参考】 http://www.tokoha-u.ac.jp/news/150520-2/index.html

災害遺構等事例リスト 19 : カテゴリ 【ワークショップ】

【名称】「子供水防団活動」——自分の身は自分で守る
【由来災害】昭和 36 年 7 月、昭和 37 年 8 月、昭和 50 年 8 月、昭和 56 年 8 月の水害
【年代】昭和 36 年以降
【場所】北海道長沼町
【概要】 河川愛護団体リバーネット 21 ながぬま（北海道長沼町）では、過去の水害を知り、災害時に備えることの大切さを学ぶ「子ども水防団」を結成。過去の災害記録を調べて「ハザードマップ」を作成している。（下記参考文献に記載があるのみで、具体的な資料まで確認できていない）
【画像】 
【参考】 (http://www.hkd.mlit.go.jp/topics/singi/siryou02_03.pdf) 第 8 回いい川・いい川づくりワークショップ審査資料 http://www.mizukan.or.jp/kawanohi/8th_iikawa_ws/entry/8th_list_all.htm

災害遺構等事例リスト 20：カテゴリ【ワークショップ】

【名称】 天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会
【場所】 長野県
【概要】 ◆実施目的 今後の災害に備え、天竜川上流地域の防災力の向上をはかるため、過去の災害体験から得られた知識・知恵を流域の人々と共有するとともに、次世代を担う人々へ伝えていくための望ましい手法を検討することを目的としている。 ◆実施主体の概要 ・学識経験者、市民団体の天竜川みらい会議、飯田市、伊那小学校ら関係者 10 人で構成。座長：笹本正治信州大学教授。 ・平成 19 年 11 月に発足。2 年間をかけて、災害教訓の調査、記録、伝承手法のあり方などをまとめる（4 回の検討会、モデル地域の取組実施）。 ◆取組概要 1) 災害教訓伝承の事例とりまとめ ・江戸時代以前、江戸時代、明治、大正、昭和の天竜川上流域の災害と体験談のヒアリング調査を行い、得られた災害教訓を整理する ・天竜川流域で活用できる災害教訓伝承ツール（ビデオ、かるた、データベル、石碑、伝承パネル、おはなしマップ等）の概要をとりまとめる。 2) 災害教訓伝承の実施 ・1) の情報から、活用する素材、対象者、手法、シナリオ展開などを整理する。 ・伝承授業（伊那小学校）、伝承講座・散策（公民館）、伝承遺構見学会（理兵衛堤防、惣兵衛堤防等）、パネル展示（日赤奉仕団大会、飯田市安全大会）、天竜川防災カフェ（飯田市美術博物館にて）などを実施 3) 検証・今後の展開 ・災害教訓伝承のイベント等の参加者を対象にアンケート調査を実施。調査結果の分析、考察から、継続的な活動に向けたサポート体制の検討を行う。（主催者、事務所の支援体制等）

【画像】



伝承授業の様子



伝承授業の様子（石碑見学）



パネル展示の様子



カフェの様子

【参考】 天竜川上流域 災害教訓伝承手法 実践の手引きと実例

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/flood/densho/pdf/tebiki.pdf>

災害遺構等事例リスト 21 : カテゴリ【イベント】【シンポジウム】

【名称】狩野川台風の記憶をつなぐ会
【由来災害】 狩野川台風（昭和 33 年）
【年代】昭和 33 年
【場所】静岡県内
<p>【概要】</p> <p>◆実施目的</p> <p>狩野川台風（S 3 3）の記憶を未来へ語り伝え、次世代へ引き継ぎ防災意識の向上に資することを目的に、当時の被害の大きさや恐ろしさを学び、被災者の体験を若者に伝え、当時の記録を集めるために設立。</p> <p>◆実施主体の概要</p> <p>静岡県沼津土木工事事務所長、沼津市、三島市など 6 市町首長、漁業組合・市民団体の代表、国土交通省沼津河川国道事務所長により構成</p> <p>平成 2 6 年 9 月の設立記念式典では、狩野川流域沿川の地域住民や市民団体等の関係者及び熊坂小学校児童などが参加、狩野川資料館ガイドボランティアによる狩野川台風の体験談や、各市町の首長から狩野川台風の記憶の伝承などを聞く機会とした</p> <p>◆取組概要</p> <p>1) 記録の収集</p> <p>当時の状況を伝える写真や新聞、書籍などの印刷物や映像などを収集している（関係機関、住民等への協力依頼）</p> <p>2) 狩野川資料館での情報提供</p> <p>伊豆長岡出張所敷地内に「狩野川資料館」では、狩野川台風の概要をまとめたビデオ上映、狩野川文庫資料の閲覧、資料館内のパネル等の見学ができるようにしている。また、1) で収集した写真・印刷物・映像等を「狩野川台風文庫」と名付け、保管している。</p> <p>3) 啓発活動</p> <p>教育関係者などと連携した学習会、地域住民を対象とした座談会やシンポジウムなどを開催するほか、副読本・教材の制作、地域イベントでの伝承活動なども予定している。</p>

【画像】



昭和33年狩野川台風の様子



狩野川資料館の展示

【参考】【参考】 狩野川台風の記憶をつなぐ会

<http://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/river/tsunagu/index.html>

災害遺構等事例リスト 22 : カテゴリ【データベース】

<p>【名称】津波デジタルライブラリ</p>
<p>【由来災害】災害全般</p>
<p>【年代】2003（平成 15 年）、津波デジタルライブラリ作成委員会</p>
<p>【場所】群馬大学災害社会工学研究室（サーバ）</p>
<p>【概要】</p> <p>「津波デジタルライブラリ」は過去の津波に関する論文・報告書・雑文・新聞記事をまとめたインターネットサイトであり、津波災害に関する既存の文献の検索・閲覧が可能である。チリ地震、明治三陸沖地震、昭和三陸沖地震、昭和南海地震、昭和東南海地震についての新聞各紙の記事を閲覧することができる。加えて、東北地方太平洋沿岸や和歌山県沿岸の津波碑の写真・所在情報も掲載している。</p>
<p>【画像】</p>
<p>【参考】URL http://tsunami-dl.jp/</p>

災害遺構等事例リスト 23 : カテゴリ【データベース】

<p>【名称】津波痕跡データベースシステム</p>
<p>【由来災害】津波災害全般</p>
<p>【年代】2007（平成 19）年度より。津波痕跡データベース検討委員会。</p>
<p>【場所】東北大学工学研究科及び原子力安全基盤機構</p>
<p>【概要】東北大学災害科学国際研究除津波工学分野および原子力安全基盤機構では、「津波痕跡データ（津波の到達した痕跡地点のデータ）」を 原子力発電所等の安全性評価に活用するために、津波専門家との協働で「津波痕跡データベースを整備した。本データベースに登録された約 2 万件の津波痕跡データは、津波専門家による精査によって痕跡の信頼度が付与されるとともに、データベースシステムは、Web-GIS を基盤とした管理システムで、ユーザーが目的に応じて高い信頼度の痕跡データを検索し抽出できるものとなっている。また、自治体や沿岸住民の活用を期してインターネットで一般公開しており、様々な方法で津波痕跡情報を検索、表示して確認をすることが可能である。</p>
<p>【画像】</p>
<p>【参考】 URL : http://tsunami-db.irides.tohoku.ac.jp/tsunami/mainframe.php</p>

災害遺構等事例リスト 25 : カテゴリ【データベース】

<p>【名称】四国災害アーカイブス</p>
<p>【由来災害】四国内で発生した地震、津波</p>
<p>【情報】一般社会法人 四国クリエイティブ協会</p>
<p>【場所】四国（管理組織の本部は香川県高松市）</p>
<p>【概要】 学識経験者等で構成する四国災害アーカイブス事業検討委員会が、四国内の郷土史、写真集、記録・体験集、論文等の収集や現地調査などをもとに、被害の様子や記録などをとりまとめてウェブサイトに掲載している（災害名、地図、遺構、参考文献等）。住民や行政職員、研究者などに活用してもらうように、活用の手引きなどもあわせて掲載している。具体的な活用事例は把握できていない。</p>
<p>【画像】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="443 837 1139 1379" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="392 1397 772 1921" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="801 1402 1193 1921" data-label="Image"> </div> </div>
<p>【参考】 https://www.shikoku-saigai.com/management</p>

災害遺構等事例リスト 26 : カテゴリ【データベース】【著書】

【名称】三重県地震碑・津波碑の集成『いのちの碑』

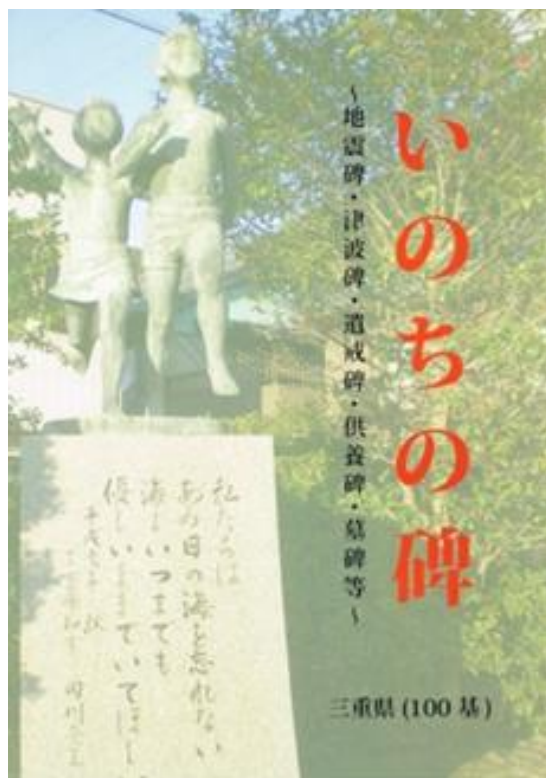
【由来災害】明応地震津波：1498年9月11日（明応7年8月25日）
宝永地震津波：1707年10月28日（宝永4年10月28日）
安政南海地震津波：1854年12月24日（嘉永7年11月5日）
昭和南海地震津波：1946（昭和21）年12月21日

【著書情報】新田康二（三重県南伊勢高等学校教諭）著。2013年刊行。

【概要】

三重県内における地震碑、津波碑、遺戒碑、供養費、墓碑など100基の写真・碑文の翻刻、所在地、大きさ、建立年のデータを収録。これらのデータを活用した社会科教育の場における実践について現在取り組み中。


【画像】



【参考】

新田康二「三重県の地震碑・津波費等一覧表」と「水害碑・洪水碑・治水碑など一覧表」について」（『三重社会』60）2015年。

災害遺構等事例リスト 27：カテゴリ【データベース】【著書】

【名称】 水害情報発信—水害の記録と記憶—（滋賀県 HP）
【由来災害】 滋賀県内で発生した水害
【年代】
【概要】 滋賀県では、水害に関する「記録と記憶」を収集・整理し、日頃から水害に関する情報をウェブサイトにとまとめている。収集した情報は、洪水別、市町村別のカテゴリに整理しているほか、先人からの言い伝えや防災マップなども閲覧できるようになっている。 具体的にこれらの情報を活用した取組までは把握できていない。
【画像】   <p>昭和 25 年ジェーン台風</p> <p>昭和 28 年台風 13 号</p>
【参考】 http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/hanran/index.html

災害遺構等事例リスト 28 : カテゴリ 【石碑】 【津波石】 【地震】 【津波】

【名称】 明治 29 年 6 月 15 日の津波記念碑	
【由来災害】 明治三陸大津波 : 1896 (明治 29) 年 6 月 15 日	
【建立】 1897 (明治 30) 年頃	
【場所】 大船渡市三陸町吉浜	
<p>【概要】</p> <p>大船渡市三陸町吉浜正寿院門前。世話人は後の 8 代村長柏崎丑太郎。石碑には「嗚呼 慘哉海嘯」とあり、明治三陸地震津波について地区の死者 195 名余の名前が刻字されている。現在は永年の風化により、名が消滅している。明治三陸地震津波を受けて吉浜村では新沼武右衛門を中心となって住民の高台移転事業を展開し、全戸の高台移転を実施している。その後、昭和三陸地震津波においても 30 戸弱の被害があり、高台の復興地への移転がおこなわれた。</p> <p><u>数度にわたる津波被害とその教訓をふまえた高台移転の結果、東日本大震災における吉浜地区の被害は軽微なものとなっている。</u>また、2011 年の津波の後、被災地整備中に地中に埋められていた昭和三陸地震津波の津波石が発見されている。</p>	
【画像】	
 <p>高 268 横 147 厚 43 明治 29 年 三陸町吉浜 部落毎の死者の名前</p>	 <p>高台移転を進めた新沼武右衛門</p>  <p>2011 年に再発見された津波石</p>
<p>正寿院門前の津波費</p>	
<p>【参考】 http://tsunami-ishi.jp/ofunato-yoshihama/report21.html (吉浜の津波の歴史)、http://sonael.com/columns/ (岩手県大船渡市三陸町吉浜地区「津波記念石」)</p>	

災害遺構等事例リスト 29 : カテゴリ【石碑】【地震】【津波】

<p>【名称】岩手県宮古市姉吉地区津波記念碑・昭和八年津波 50 回忌供養</p>		
<p>【由来災害】明治三陸地震津波：明治 29 年（1896）6 月 15 日 昭和三陸地震津波：昭和 8 年（1933）3 月 3 日</p>		
<p>【場所】宮城県宮古市重茂字姉吉</p>		
<p>【概要】 岩手県宮古市重茂字姉吉では、明治三陸地震津波の際に 60 人以上が死亡、昭和三陸地震津波では 100 人以上が犠牲となった。昭和三陸地震津波の後、津波到達地点に「此処より下に家を建てるな」の津波碑が建立された。また、昭和 57 年 6 月には地区の発起人 25 名により、被災 50 回忌として「観世音菩薩勸請縁起」が建立された。しかし、この石碑は東日本大震災の津波に被災し、現在の所在は不明となっている。</p>		
<p>【画像】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: right;">宮古 130</p> <p style="text-align: center;">大津波津浪記念碑</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <p>高き住居は 児孫の和楽 想へ惨禍の 大津浪 此処より下に 家を建てるな</p> </td> <td style="width: 50%;"> <p>明治廿九年にも 昭和八年にも津 浪は此処まで来て 部落は全滅し生 存者僅かに二人 後に四人のみ幾歳 経るとも要心何從</p> </td> </tr> </table> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;">  <p style="text-align: center;">昭和 8年50回忌 宮古市姉吉 昭和57年6月建立</p> </div>	<p>高き住居は 児孫の和楽 想へ惨禍の 大津浪 此処より下に 家を建てるな</p>	<p>明治廿九年にも 昭和八年にも津 浪は此処まで来て 部落は全滅し生 存者僅かに二人 後に四人のみ幾歳 経るとも要心何從</p>
<p>高き住居は 児孫の和楽 想へ惨禍の 大津浪 此処より下に 家を建てるな</p>	<p>明治廿九年にも 昭和八年にも津 浪は此処まで来て 部落は全滅し生 存者僅かに二人 後に四人のみ幾歳 経るとも要心何從</p>	
<p>【参考】</p>		

災害遺構等事例リスト 30 : カテゴリ【石碑】【地震】【津波】

【名称】昭和8年3月3日の津波記念碑	
【由来災害】昭和三陸地震津波：昭和8年(1933)3月3日	
【場所】岩手県洋野町、宮城県南三陸町、女川町	
【概要】昭和三陸地震津波の後、東京朝日新聞社の義捐金により各地で建立されたもの。 <u>積極的に活用されている事例と活用されていない事例とが混在。</u>	
【岩手県洋野町】東京朝日新聞社読者からの寄託された義捐金で建設された。碑文は教訓の形で記録を示している。洋野町では昭和三陸津波が襲った3月3日に毎年、早朝に防災訓練を実施してきた。 <u>しかし、参加者は年々減少してきたため、消防署が中心となり2006年から防災訓練の在り方を見直した。こうした防災訓練が、2011年の東日本大震災において洋野町では犠牲者を出さなかったことに繋がっている。</u>	
【志津川地区】長清水国道398号線沿いにあり「地震があったら津波の用心」と刻まれているが、下の写真の通り、全面苔で、教訓や警告の趣意をなさない。	
【女川地区】何が原因か定かではないが、二つに割れた状態であり、倒壊したものを再建した痕跡が残されている。	
【画像】岩手県洋野町	旧歌津町の津波碑
	
	
	
	
【参考】	